

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	千葉大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	専門看護師育成・強化プログラム（専門看護師リーダーの養成）		
主たる研究科・専攻名	看護学研究科看護学専攻		
（他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名）			
取組実施担当者	（代表者） 中村 伸枝		

[教育プログラムの概要]

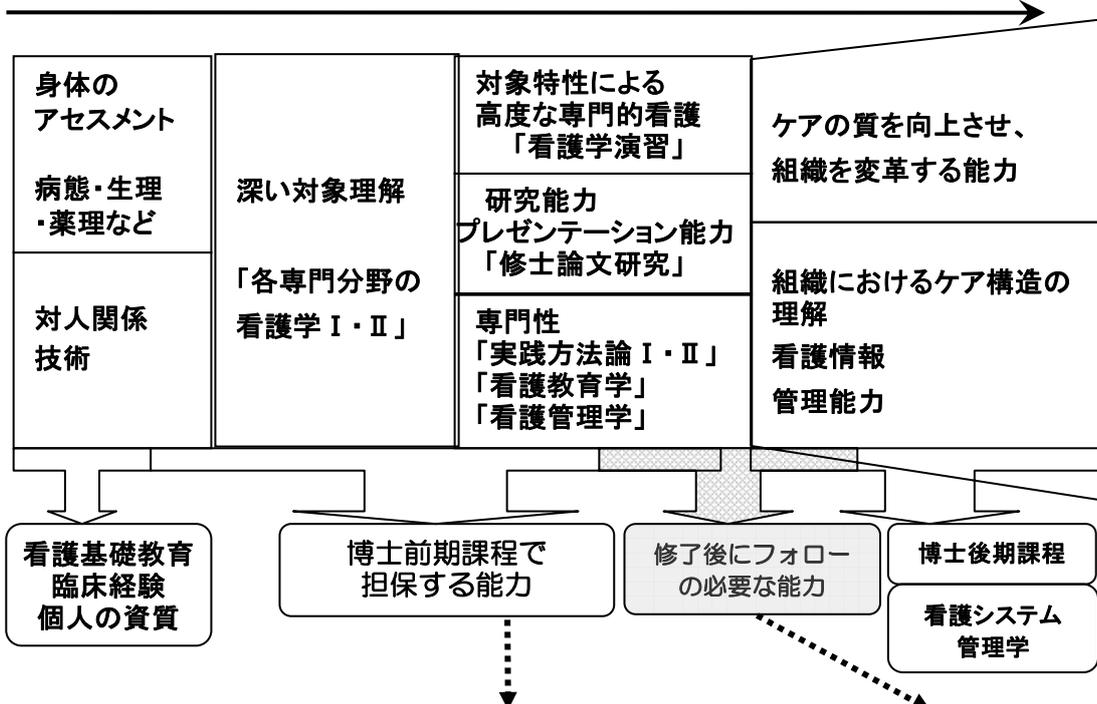
本プログラムは、現在の看護学研究科博士前期課程にある**専門看護師教育の充実**と、**専門看護師を1年間在職のまま受け入れる博士後期課程に連動した『専門看護師強化コース』の新設**を核とした博士課程の教育改編であり、高度な看護実践能力と研究能力を備えた**専門看護師リーダーの養成**を目指している。多職種の中で看護の専門性を示しながら活動する専門看護師には、高度なコミュニケーション能力やケア全体の構造を見越した視点、変化を生じさせるのに必要な実践能力、そして根拠に基づき他者に示すための研究能力が求められる。本研究科では、専門看護師を目指す大学院生にも修士論文研究を課すことで、研究能力のみならず対象理解の深まりによる実践能力の向上や、看護実践の中で生じた困難を分析し解決する能力を担保してきた。本プログラムでは、看護学研究科博士前期課程において新設科目と改編科目の合計7単位を科目履修可能にして専門看護師教育の充実を図る。また、『専門看護師強化コース』を新設し、専門看護師の活動に必要な高度な知識や技術を取得する5科目および、専門看護師導入モデル施設と提携した研修を行う科目を新設する。遠隔地学習支援(E-Learning)システムを導入し、高度実践に関する自己学習の機会を提供する。『専門看護師強化コース』で修得する6単位のうち、4単位を博士後期課程の履修単位として読み替える。コース修了生が博士後期課程に進学した場合には、千葉大学大学院学則の第33条2項を適用し、2年間での修了を可能とする。また、全国の専門看護師の組織作りとして、**専門看護師ワークショップの開催やプロジェクト研究の推進**を行う。さらに、**専門看護師導入モデル施設を拠点とした看護管理者との協働**により、専門看護師の教育や活動の環境を整備していく。

2007年4月現在、25の大学院に専門看護師教育課程が設置されている。千葉大学大学院看護学研究科では4専門分野が専門看護師教育課程の認定を受け、現在、32人がこの教育課程を終え認定に必要な課程修了後の実務経験を重ねており、9人が専門看護師の認定を受けて活動している。しかし、専門看護師を導入している施設はまだ少数であり、専門看護師が能力を高めていく方策は、所属する施設管理者の考え方や専門看護師個人の力量に委ねられている。本プログラムにより専門看護師教育が博士前期課程から博士後期課程へと体系化されることで、看護ケアの質を向上させ組織を変革するのみならず、専門看護師全体の活動を視野に入れて必要な研究を組織したり、高度実践のケアスタンダードを構築していく専門看護師のリーダー育成が可能になると考えられる。このような専門看護師の活動は、少子高齢化や健康問題の多様化・複雑化が進む国民へ質の高いケアを提供するうえで重要な役割を果たすことが期待される。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

専門看護師育成・強化プログラム

年齢、経験、立場の変化(昇進)などによる能力の向上



専門看護師に必要な能力	博士前期課程	専門看護師強化コース
身体のアセスメント 病態・生理・薬理の理解	病態学Ⅰ，機能・代謝学Ⅰ 各専門分野の看護学Ⅰ・Ⅱ 〈新設科目〉 ナーシング・フィジカル・アセスメント	〈新設科目〉 CNSのための最新薬理学 CNSのための最新病態学
対人関係技術 ・対人関係	各専門分野の看護学Ⅰ・Ⅱ	
深い対象理解	各専門分野の看護学Ⅰ・Ⅱ 修士論文研究	
対象特性による高度な専門的看護	看護実践方法論Ⅱ(看護倫理) 看護学演習 修士論文研究	
研究能力 プレゼンテーション能力	修士論文研究	
専門性 ・看護理論 ・看護教育 ・コンサルテーション ・コーディネーション	看護教育学Ⅰ 看護実践方法論Ⅰ (看護理論・コンサルテーション) 修士論文研究 CNS実習	〈新設科目〉 コンサルテーション実践強化演習* リーダーシップ実践強化演習*
ケアの質を向上させ、組織を変革する能力	看護実践方法論Ⅱ(看護政策) 看護管理学	〈新設科目〉 組織における高度実践看護論 CNS研修
組織におけるケア構造の理解 管理能力	看護管理学 保健学Ⅱ	

注) * は、一部の講義を認定看護師教育課程(乳がん看護)の講義と互換する

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、専門看護師（CNS）リーダーの養成という社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿って、博士後期課程に連動した「専門看護師強化コース」を新設し、体系的な大学院教育として、ユニークな試みであることは高く評価できる。

教育プログラムについては、対象理解の深まりによる、実践能力の向上を目指したプログラムとなっており、病態学・薬理学の基礎系の科目の開設や、看護管理学やコンサルテーション・コーディネーションの科目設置は評価できる。また、専門看護師導入モデル施設との提携については、これまでに看護管理者と大学教員による専門看護師・認定看護師部会の設置経験から、その実現性・実効性が期待できる。ただし、専門看護師養成の先進国である海外大学との連携も今後進めていくことが望まれる。また、CNSとしての経験と後期課程における学位取得を両立させるための具体化方策を明確にする必要があり、医療現場との連携も必要である。